

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和元年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	令和元年度の実績と振り返り	令和元年度の担当課評価	市民・利用者からの声	
基本目標(1)学習情報の収集・発信						【実績】参加人数等の実績 【振り返り】担当課としての振り返り評価	A～Dの4段階で評価	参加した市民や利用者からの声
(1)-1	○生涯学習情報の集約	サークル・団体紹介	市民のサークル・団体情報を集め(掲載を希望する団体)、冊子やホームページで情報提供する。	生涯学習課	【実績】引き続き、冊子を市内公共施設16か所に設置しているほか、市ホームページで情報を公開。 【振り返り】掲載している情報が古くなっていることから、令和2年度に一斉更新を行うこととした。	B:平成30年度並みの成果であった	・市ホームページのサークル・団体紹介のページの場所が分かりづらいとの声があった。	
(1)-2	○生涯学習情報の集約 ○多様な手段での情報発信	生涯学習情報の集約・発信事業	市の生涯学習に関する情報を集約し、多様な手段で情報を発信する。	生涯学習課	【振り返り】令和2年1月、社会教育委員の会から生涯学習情報の集約・発信事業に関する意見をいただいたが、その後、新たな手段の構築までには至らなかった。	B:平成30年度並みの成果であった	特になし。	
(1)-3	○多様な手段での情報発信	公民館だより・図書室月報発行事業	公民館事業および公民館図書室の情報を提供するため、毎月1回広報誌を発行している。今後も公民館事業の発信および周知を図る。	公民館	【実績】公民館だより及び図書室月報を月1回発行した。公民館講座の募集記事や講座参加者の声、講演要旨、公民館図書室の新着図書や講座参考図書などの情報提供を行った。	B:平成30年度並みの成果であった	・毎月、公民館講座や施設利用の情報は、講座参加者の声を読むことができ、学習に役立っているとの声があった。	
(1)-4	○多様な手段での情報発信	図書館広報事業	図書館事業の情報を市報や館報、ホームページを使って広く周知し、利用を促進する。	図書館	【実績】図書館広報紙「いんふおめーしょん」発行、くにたちの教育、図書館HP、市HPによる広報を行った。 新型コロナウイルスの関係で2月下旬以降、イベントが中止になった旨、集会室、インターネット端末、座席利用の中止の旨等の広報を図書館HPで行った。 【振り返り】さまざまな世代に即した、事業及び広報を意識し、図書館の利用を促進する必要がある。図書館システム入れ替えに伴う図書館ホームページリニューアル(R2.2～)に伴い、より見やすく多くの情報を掲載した。	A:平成30年度より高い成果があった	・コロナ対策について、市報等での告知が十分になされていない旨の声があった。 ・リニューアル後のHPについて、一部の機能が使いづらい旨の声があった。 ・改修したHPが見やすくなった旨の声があった。	

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	令和元年度の実績と振り返り	令和元年度の担当課評価	市民・利用者からの声	
基本目標(2)学習機会の充実						【実績】参加人数等の実績 【振り返り】担当課としての振り返り評価	A～Dの4段階で評価	参加した市民や利用者からの声
(2)-1	○ライフステージに応じた学習機会の充実	いきいき百歳体操の普及推進	高齢者の介護予防として筋力向上とコミュニティづくりを推進するため、おもりを使った筋力運動である「いきいき百歳体操」の普及と効果測定を市内保健師連携により図るとともに、自主的に行うグループを増やしていく。	健康増進課	【実績】 保健センターで実施する「お試し3か月」(12回×2コース)には延426人、実44人の参加があった。市内で100歳体操を継続しているグループは、11団体に加え、元年度お試し終了者から2団体ができた。 【振り返り】 「お試し3か月」は口コミと市報周知ですぐに定員となる人気事業となっている。継続したい要望により、新規に2団体が誕生した。	A:平成30年度より高い成果があった	・参加者アンケートでは、肩こりが減った・足腰が軽くなったなどの身体的な変化の他、楽しくなった・体を動かすことや食事に気を遣うようになったなど、気分、意識の変化も書かれていた。	
(2)-2	○ライフステージに応じた学習機会の充実	国立市青少年国内交流事業	国立市在住の小学6年生を国内に派遣し、歴史・風土・文化に触れ、平和・人権などについての相互理解を深める機会を提供する。	児童青少年課	【実績】 16名の派遣生を長崎へ派遣。2泊3日の行程で実施	B:平成30年度並みの成果であった	派遣生の声 戦争の悲惨さ、平和の尊さを学ぶに至った他	
(2)-3	○ライフステージに応じた学習機会の充実	グローバルカフェ事業	カフェのような気軽な雰囲気の中で国立市内在住の中高生(企画により小学校高学年児童を含む)と一橋大学の留学生とが交流する機会をつくり、多文化共生の視点を持ち、国際人の一人として行動できる青少年を育成する。	児童青少年課	【実績】 年間で全5回実施 (新型コロナウイルス感染症の影響で、第6回目を中止) 延べ74名が参加	C:平成30年度より低い成果であった	参加者の声 英語がうまく通じて嬉しかった他	
(2)-4	○ライフステージに応じた学習機会の充実	CMスタッフ事業	国立市内在住又は在学の高中生を対象に、中高生自身の意見の発信や中高生の目線を取り入れた市の情報発信を行う機会を提供することで、中高生の市に対する理解を高めるとともに、社会への参画の意欲を高める。	児童青少年課	【実績】 居場所づくり事業補助金交付団体の実施の様子を、四季を通して取材し、動画として配信 活動回数28回 配信数3本	B:平成30年度並みの成果であった	CMスタッフの声 地域の人たちがこんな活動をしているなんて知らなかった。他	
(2)-5	○ライフステージに応じた学習機会の充実	児童館小学生体験交流事業	小学生を対象に、遠足等の野外活動、工作・料理などの体験活動、焼き芋、凧作り等の季節行事、合唱・劇団などのクラブ活動等の機会を提供することで、小学生の社会性や自律性を育む。	児童青少年課	【実績】 年間で269回実施 延べ11,855人参加 (台風の影響及び新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった行事あり)	B:平成30年度並みの成果であった	参加者の声 楽しい経験となった	

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	令和元年度の実績と振り返り	令和元年度の担当課評価	市民・利用者からの声
(2)-6	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	青少年キャンプ事業	国立市内在住の小学5年生～中学3年生を対象に、桧原村湯久保の古民家に宿泊し、豊かな自然の中での野外活動や学校の違う人と寝食をともにするキャンプを実施することで、自活力、コミュニケーション力を育む。	児童青少年課	【実績】 2泊3日で実施 9名が参加 (募集定員に満たず)	B:平成30年度並みの成果であった	参加者の声 普段経験できないことが経験できた
(2)-7	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	プレーパーク事業	国立市内在住の18歳までの児童が、ツリークライミングやロープ綱渡り、野外料理、ハイキングなどを行うことができる環境を整備することで、世代間交流の居場所を提供すると共に、児童の本来の力を引き出す機会を提供する。	児童青少年課	【実績】 46回開催 延べ3,937名参加	B:平成30年度並みの成果であった	・自然の中で、好きなことにチャレンジできる
(2)-8	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	高次脳機能障害者支援促進事業	高次脳機能しょうがいを持つ方の集いの場として、国立市障害者センターにサロンを開設し、楽しみながら脳のリハビリにもなる様々なプログラム(体操、調理、絵手紙、俳句、音楽、書道等)を実施している。	しょうがいしゃ支援課	【実績と振り返り】 毎週水曜日(祝日を除く)の13時30分～15時30分、全48回(平成31年4月3日～令和2年3月25日)実施。 近隣市のクリニックより作業療法士の派遣を得て、支援員とともにプログラムを実施。少人数で安心して参加できる場とするとともに、プログラムには参加者の意向も取り入れつつ、参加者がそれぞれの持つ力を発揮でき、かつ高次脳機能しょうがいの評価、回復、助言につながるよう考慮している。約50種のプログラムを実施した。 結果として、引きこもりだった方の継続的な参加や、参加者同士の自己開示、参加者自身の代償手段への気付きおよび獲得、高次脳機能しょうがいの緩やかな回復といった効果が得られた。参加者も徐々に増えるとともに、サロンへの参加をきっかけに障害年金の取得や就労移行支援につながる等、社会参加の入口としての役割も果たしている。なお、サロン事業で得られた参加者の高次脳機能しょうがいの評価は、個別支援にも活用されている。	B:平成30年度並みの成果であった	・安心して楽しく参加できる場として、当事者・家族や関係団体より評価いただき、今後の事業継続を期待されている。また、他自治体の視察やリハビリテーションを学ぶ学生の見学も多く受け入れている。
(2)-9	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	家庭教育講座	子育てを学ぶ機会の減少など家庭教育を支える環境の変化により、子どもの保護者への負担が大きくなっている中で、家庭が抱えるさまざまな課題解決の一助とすることを目的に家庭教育講座を実施する。	生涯学習課	【実績】 令和2年2月に講演会実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止。	D:令和元年度未実施であった	

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	令和元年度の実績と振り返り	令和元年度の担当課評価	市民・利用者からの声
(2)-10	○ライフステージに応じた学習機会の充実	高齢者向け各種運動事業	高齢者向け社会体育事業として、健康体操教室、街を山を歩くを実施している。	生涯学習課	【実績】 街を・山を歩く 年3回実施 参加延べ人数122人 【振り返り】 新型コロナウイルスの関係で、3月実施分が中止となった。また、健康体操教室については、総合体育館事業へ統合しており、実施していない。	B:平成30年度並みの成果であった	・3月実施分において、利用者アンケートを予定していたが、新型コロナウイルスに伴い中止となっており、意見聴取はできていない。
(2)-11	○ライフステージに応じた学習機会の充実	女性・男性・親子・子ども・高齢者向けの事業	世代別および個別の学習機会を提供するため、世代別や性別に応じた様々な事業を展開する。	公民館	【実績】 女性のライフデザイン講座(通年)や男性の料理講座(年2回)、親子講座(年5回)、シルバー学習室(通年)を実施した。	B:平成30年度並みの成果であった	・目的・問題意識を持って学ぶことで、自分自身や家族、生活を見直す契機となり、また同じような課題を持つ人達と一緒に定期的に学ぶことで、仲間づくりができて、生活にメリハリがでた、との声があった。
(2)-12	○ライフステージに応じた学習機会の充実	しょうがいしゃ青年教室、しょうがいしゃPC事業	しょうがいのある者となない者が共に活動し、お互い学び合うことを目的に事業を展開する。今後も共生の地域社会を育む学習機会を提供する。	公民館	【実績】 しょうがいしゃ青年教室(137回)、年間交流行事(7回)等を実施。 【振り返り】 しょうがいしゃもボランティアのスタッフとともに年間行事の実行委員を務める等、しょうがいの有無を越えた生涯学習の機会となっている。	B:平成30年度並みの成果であった	・毎回の参加を楽しみにしている・自分たちにも活躍する場があって嬉しい、などしょうがいのある方にとって拠り所となっているとの声があった。
(2)-13	○ライフステージに応じた学習機会の充実	自立に課題を抱える若者支援事業	若者の自立や社会参画支援を目的として事業を展開する。今後も若者視線で関係機関と連携した共生の地域社会づくりを推進する。	公民館	【実績】 中高生のための学習支援(35回)、NHK学園共催講座(4回)等を実施。様々な背景を抱える中高生・若者に対して、学習の個別支援や地域とつながるきっかけになるイベントを開催した。	B:平成30年度並みの成果であった	・学習支援では、学習の面において自身が成長できた、支援者から教わることでわからないことがわかるようになった、との声があった。

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	令和元年度の実績と振り返り	令和元年度の担当課評価	市民・利用者からの声
(2)-14	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	生活のための日本語講座、日本語教育入門、にほんごサロン	国籍・文化・言語などの違いを超えて暮らしやすい生活を送ることを目的に事業を展開する。今後も共生の地域社会を育む学習機会を提供する。	公民館	【実績】 生活のための日本語講座(239回)、日本語教育入門(6回)、にほんごサロン(10回)	B:平成30年度並みの成果であった	・日本語講座、にほんごサロンでは、日本語や日本文化について勉強でき、生活が楽しくなったという声、日本語教育入門では早く日本語ボランティアに参加したいという気持ちになった、との声があった。
(2)-15	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	児童サービス事業	子どもたちの学習や生活に役立つだけでなく、子どもの豊かな心の育成を目指し、推薦図書リストの作成、調べものの支援及び「えほんのじかん」「おはなしのじかん」「わらべうたであそぼう」などを実施している。また、中高生向けには、YAコーナーの展示や講演会の企画を実施している。対象は、子どもだけでなく、子育てにかかわる親や家族、先生、保育士、ボランティアも含む。	図書館	【実績】 15才未満児童一人当たりの児童書平均貸出冊数が17.9冊だった。(15才未満児童数8,700人、児童書貸出冊数155,435冊) 【振り返り】 平成30年度における15才未満児童一人当たりの児童書平均貸出冊数が16.3冊(15才未満児童数9,864人、児童書貸出冊数160,460冊)であるのと比較すると、事業に効果があったといえる。	A:平成30年度より高い成果があった	特になし。
(2)-16	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	しょうがいしゃサービス事業	図書館の利用や情報入手にハンディのある利用者へ、資料・情報の提供をし、生涯にわたる学習を担保するための事業。視覚しょうがいしゃ向け資料の選定・作成依頼、大活字本等の購入、音訳・点訳資料の貸出、宅配サービス、相互貸借(他館との協力による貸出)等を行う。	図書館	【実績】 しょうがいしゃサービス利用者数一人当たりの音訳資料、点訳資料平均貸出冊数が140.2冊だった。(しょうがいしゃサービス利用者数13人、音訳、点訳資料貸出冊数1,822冊) 【振り返り】 平成30年度におけるしょうがいしゃサービス利用者数一人当たりの音訳資料、点訳資料平均貸出冊数が105.9冊(障害者サービス利用者数16人、音訳、点訳資料貸出冊数1,695冊)であるのと比較すると、事業に効果があったといえる。	A:平成30年度より高い成果があった	・しょうがい等があっても図書の利用ができることを喜ぶ声や継続を望む声があがっている。

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	令和元年度の実績と振り返り	令和元年度の担当課評価	市民・利用者からの声
(2)-17	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	租税教室	児童・生徒が、租税の意義や役割を正しく認識し、将来、健全な納税者となることを願い、適正な申告と納税の重要性について理解させることを目的とし、教育関係者、国税・地方税当局、税理士会、法人会等との連携・協調の下で、「租税教室」を実施する。	収納課	【実績】 租税教室を1回開催した。 【振り返り】 税金の必要性、税金の使われ方、国立市の税金などについて認識してもらい良い機会になった。	B:平成30年度並みの成果であった	・税金の必要性・重要性が理解できた、との声があった。
(2)-18	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	各種健康相談、健康に関する講話・講演会、啓発など	主に生活習慣病予防を目的に、健康に関する意識啓発、生活習慣や検査データの改善を図るための各種事業を、各種団体とも連携しながら実施する。	健康増進課	【実績】 市内8団体(延188人)に生活習慣病予防やロコモティブシンドローム予防等の講話、小学生2クラスに地場野菜と栄養の講話を実施した。	B:平成30年度並みの成果であった	・健康に関わる学びの依頼をいろいろな団体から受けている。
(2)-19	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	健康づくり推進員活動支援事業	健康寿命の延伸と健康なまちづくりを目標に、意欲ある市民を健康づくり推進員として登録し、保健師等とともに市民の健康づくりを推進する。推進員には必要な病態、運動、栄養等の知識の習得と健康づくりの実践に努めていただき、地域住民等の自発的な健康づくり活動の展開につなげていく。また、オリジナル体操の普及を推進するため、健康づくり推進員が毎週定期的に公園で開催するほか、地域の団体への出張講習や高齢者事業等で普及を図る。	健康増進課	【実績】 定例会・現任研修を6回(参加延99人)、オリジナル体操レベルアップ講座1回(参加20人)を実施。また第3期の養成講座で5人が加わり、推進員は36人となった。推進員活動として、ジュンフェスタでのちらし配布や、市民祭りやNo22の講座等でのオリジナル体操披露、保健センターが実施する講演会等の受付・会場整理を担うなど活躍した。毎週の体操のつどいの中心的存在であり、市民の参加は毎回20人程度となっている。 【振り返り】 養成講座に1~2期推進員の体験談をお願いしたところ、自分の健康づくりや周囲とのつながりについて語ってくれ、誘い合い励ましあう様子が伺えた。	B:平成30年度並みの成果であった	・推進員一人ひとりの健康学習ができ、なかまや地域とのつながりの機会になるとの声が聞かれており、そのことを新しい推進員の養成講座で先輩として伝えていた。令和元年度の講座では、特にオリジナル体操のレベルアップ講座の満足度が高かった。
(2)-20	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	国立市青少年海外短期派遣事業	国立市内在住又は在学の中高生を海外へ派遣し、多文化・多様な人種の共生する社会を学習する機会を提供することで、他者理解の意識を醸成すると共に、将来のグローバル社会の担い手としての意識を育成し、世界を舞台に活躍する人材の輩出に寄与する。	児童青少年課	【実績】 10名の派遣生をシンガポール共和国へ派遣。5泊7日の行程で実施。	B:平成30年度並みの成果であった	派遣生の声 多様性について体感することができた。チャレンジすることの大切さを学んだ。他
(2)-21	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	ローカルセッション事業	国立市内在住又は在学の中高生を対象に、市内の地域資源等に触れながら、自分たちの活動の相互共有を図ることのできる機会を提供することで、中高生の他者理解や国立市政に対する考えを深め、また社会へ参画する意欲を高める。	児童青少年課	【実績】 富士見台のまちづくりにかかわるワークショップを全3回にわたり実施 延べ25名が参加	B:平成30年度並みの成果であった	参加者の声 活発な議論ができてよかった。国立市について知ることができた。他

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	令和元年度の実績と振り返り	令和元年度の担当課評価	市民・利用者からの声
(2)-22	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	子ども観劇会事業	文化・芸術にふれる環境を整え、国立市内在住の小中学生の豊かな成長と地域文化への愛着を促すため、児童青少年課と市民グループを構成員とした「わくわく子どもフェスタ実行委員会」による事業の一環として子ども観劇会を実施する。	児童青少年課	【実績】 わくわく子どもフェスタ内のホール公演として、人形劇を実施 260名参加 フェスタには、505人参加	A:平成30年度より高い成果があった	参加者の声 楽しく観られた 子連れで1時間半の観劇は少し長く感じた
(2)-23	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	稲作体験学習会	市内小学校5年生児童を対象として実施。田植え・稲刈りの他、各校の希望に応じて、稲作体験学習会拡充プランとして社会科の授業へのゲストスピーカーの派遣、調理実習への委員訪問等を行う。	南部地域まちづくり課	【振り返り】 教育委員会、農業委員会、JAとの連携・協働が順調に行われ、問題なく実施することができた。	B:平成30年度並みの成果であった	・地元産のお米や地域への関心が高まった。
(2)-24	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	子ども向け各種運動事業	水泳・サッカーの教室を実施しているほか、東京女子体育大学・東京都多摩障害者スポーツセンターの協力により、様々なスポーツを体験できる「スポーツ子どもの日」を実施する。	生涯学習課	【実績】 スポーツ子どもの日 参加延べ人数112人 【振り返り】 オリパラ機運醸成の一環として実施した。なお、小学生初心者水泳教室、ファミリーサッカー教室は、総合体育館事業へ統合しており、実施していない。	A:平成30年度より高い成果があった	・スポーツ子どもの日の参加者からは、パラリンピック・ゴールボール競技の体験に際し、「見えない中でボールを投げたり、取ったりするのは難しかったけど、もっとやってみたくなった」などの意見があり、学生助手からは「子どもたちは日頃体験しないスポーツでも覚えるのが早く、楽しそうだったので、うれしい」との声があった。
(2)-25	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	ファミリーを対象とした各種運動事業	東京女子体育大学の協力により、ファミリーソフトボール教室を実施する。	生涯学習課	【実績】 ファミリーソフトボール教室 未実施 【振り返り】 オリパラ影響により、講師都合が合わず実施できなかった。	D:令和元年度未実施であった	

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	令和元年度の実績と振り返り	令和元年度の担当課評価	市民・利用者からの声
(2)-26	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	しょうがいしゃを対象とした各種運動事業	身近な地域でのしょうがいのある方々のスポーツ活動の推進のため、東京都多摩障害者スポーツセンターと卓球連盟の協力により、卓球教室を実施する。	生涯学習課	【実績】 ①ポッチャ体験教室 年11回実施 参加延べ人数462人 ②ポッチャくにたちカップ2019 参加延べ人数133人 【振り返り】 オリパラ機運醸成の一環として、ポッチャ大会を初めて開催した。しょうがいの有無に関わらず多くの参加があり、しょうがいしゃスポーツの普及・促進に加え、インクルーシブな視点からも良い取り組みとなった。 一方、例年実施しているみんなで卓球inくにたちは新型コロナウイルスの影響で中止した。	A:平成30年度より高い成果があった	特になし。
(2)-27	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	人権週間イベント	あらゆる差別や偏見の存在しない「人間を大切にする」まちづくりを推進するため、人権週間に合わせてイベント(講演会、映画上映会、パネル展等)を行う。	市長室	【実績】 人権週間に合わせて12月11日に、「ライフステーションワンステップかたつむり」と共催で、「体験劇 絹子ものがたり」を開催した。 【振り返り】 令和元年度は、「しょうがいしゃがあたり前に地域で生きる」をテーマに、市内在住の重度しょうがいしゃで、国立市人権・平和のまちづくり審議会委員を務める三井絹子氏の生涯にスポットをあて、三井氏の活動の歴史を、歌や踊りを交えた体験劇を開催したことで、ソーシャル・インクルージョンのまちづくりに向けて、市民の多様性への理解を促進することができた。	B:平成30年度並みの成果であった	・劇そのものの内容を評価する声や、体験劇を通して自然と自分ごととして、ソーシャル・インクルージョンの大切さ等について考えることができたとの声が複数名からあった。



番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	令和元年度の実績と振り返り	令和元年度の担当課評価	市民・利用者からの声
(2)-28	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	平和事業	国立市平和都市宣言の趣旨に沿って、市民の平和意識の啓発を目的としたイベント(講演会、映画上映会、パネル展等)をくにたち平和の日等に開催する。	市長室	<p>【実績】</p> <p>①6月21日の「くにたち平和の日」に「100年先の世界を見据えた“平和創造”について」と題した講演会を開催した。</p> <p>②「くにたち平和推進週間」を含む6月11日から27日には、一橋大学の卒業生有志が結成した「一橋いしぶみの会」及び「一橋新聞部」の協力のもと、戦没学友の生涯にスポットを当てたパネル展を開催した。</p> <p>【振り返り】</p> <p>①「国立市平和都市宣言」にある核兵器のない世界に向けた意識啓発に加え、平成31年4月施行の「国立市人権を尊重し多様性を認め合う平和なまちづくり基本条例」で謳われている多様性もテーマに含め、日常における相互理解から平和を考える事業を実施できた。</p> <p>②国立市に所縁のある戦没者を知ることを通じて、市民の平和意識の醸成を図ることができた。</p>	B:平成30年度並みの成果であった	<p>・講演会のアンケートには、先を見据えた問題を取り上げ、知らないことを知る機会となった、情熱と説得力のある講演だった、との高い評価が寄せられた。一方で、若い世代の参加が少ない、また、全体に参加者が少ないことを残念に思う意見が寄せられた。内容の評価が高かっただけに、より多くの方に関心を持って参加していただく周知方法についてより一層の検討が必要と思われる。</p> <p>・パネル展は市民の関心が高く、今後も展示を望む声があったため、引き続き「一橋いしぶみの会」等の協力を得て事業を展開していく予定である。</p>
(2)-29	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	文化・芸術の視点を取り入れた人権・平和啓発事業	人権・平和施策をより広く発信していくため、平和コンサートや平和文学賞など、特に文化・芸術振興の視点を取り入れた人権・平和の意識啓発を図る。	市長室	<p>【実績】</p> <p>①実行委員会と共に、原爆に関する一行のコバを広く募集し、選定作品を市内公共施設等で展示した。また同事業のタイアップ企画として、7月1日～11日、8月1日～20日に広島市立基町高等学校の生徒と被爆体験証言者との共同制作による「原爆の絵」を市役所と公民館で展示した。</p> <p>②10月24日、25日に第9回平和首長会議国内加盟都市会議総会を国立市で開催した。</p> <p>【振り返り】</p> <p>①原爆の日について考えることを通じて、市民の平和意識を醸成することができた。</p> <p>②初日の国立市プログラム「ピース フロム 国立」では、国立音楽大学附属高等学校生徒による「祝祭」の演奏や、市民合唱団による「くにたち平和組曲『祈る日-混声合唱とピアノのための-』」合唱等を通じて広く平和への思いを発信できた。</p>	A:平成30年度より高い成果があった	<p>・タイアップ企画として実施した「原爆の絵」が8月にテレビでも取り上げられるなど、とてもタイムリーな企画として好評を頂いた。</p> <p>・参加者からは被爆地以外の国立市で開催することの意義を評価する声や、プログラムの内容に関して、国立らしく芸術的で良かった、との声があった。</p>

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	令和元年度の実績と振り返り	令和元年度の担当課評価	市民・利用者からの声
(2)-30	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	女性と男性及び多様な性の平等事業	女性と男性及び多様な性の平等参画を推進することを目的として、男女共同参画推進週間等に合わせてイベント(講演会、映画上映会、パネル展等)を行う。	市長室	<p>【実績】</p> <p>①4月28日、29日に代々木公園イベント広場で開催された「東京レインボープライド2019」にブース出展した。</p> <p>②教育委員会との共催で11月7日に映画「カラコエの花」の上映やパネルディスカッション等をくにたち市民芸術小ホールで行った。</p> <p>【振り返り】</p> <p>①市民だけでなく来場した多くの方へ「国立市女性と男性及び多様な性の平等参画を推進する条例」を周知でき、またLGBT当事者の方とのトークイベントやアンケート調査を通じて当事者等が暮らしやすいまちづくりに必要となる施策に向けた意見聴取ができた。</p> <p>②映画上映やその後の参加者との意見交換等を通して、LGBT等を含む多様な性についての一層の理解啓発を図ることができた。</p>	A:平成30年度より高い成果があった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国立市の多様な性の平等参画の推進への取り組みを評価する声やパートナーシップ制度の導入についての要望などがあつた。</li> <li>・映画やパネルディスカッションを通して多様な性について深く考える機会となったとの声や、特に当事者の話が身に染みるものがあり良かった、との声が多くあつた。</li> </ul>
(2)-31	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	防災出前講座	受講希望者が聞きたい内容に合わせて防災出前講座を実施。防災意識等の高まりから市民や団体等からの開催要望が多く、引き続き様々な機会を捉えて、周知をしていく。	防災安全課	<p>【実績】</p> <p>出前講座を7回実施した。</p> <p>【振り返り】</p> <p>自治会や集合住宅からの依頼のほか、複合的な福祉サービスを提供している社会福祉法人からの依頼があつた。地震及び風水害に対する備えについての座学式の講座のほか、ワークショップ形式の講座も依頼に基づき実施した。</p>	B:平成30年度並みの成果であつた	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災に関して学べる貴重な経験となった、などの声が多くあつた。</li> </ul>

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	令和元年度の実績と振り返り	令和元年度の担当課評価	市民・利用者からの声
(2)-32	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	各種防災訓練等	各防災機関や市民等が、とるべき防災活動を実践及び防災対策について習熟し、防災機関が相互の連携体制を確立するため、各種訓練を実施していく。	防災安全課	【実績と振り返り】 総合防災訓練については、実施時期を8月末から6月末に変更し、自主防災組織が毎年行う訓練と合同開催したことにより、例年より多くの市民の方に参加していただけた。また、国立市では初の取組となる災害時医療に特化した大規模な訓練を医師会を中心に開催した。その他、避難所開設に係る訓練や関係機関と行う訓練等、様々な訓練を実施した。	A:平成30年度より高い成果があった	・非常に良い訓練内容であったとの声が多くあった。反対に、各地域で実施する訓練については、参加者が固定化してきている。初めて訓練に参加するという方がもっと多く増えるといい、との声があった。
(2)-33	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	健康ウォーキングマップ普及事業	ウォーキングによる健康づくりを推進するため、市民のワーキンググループである「ウォーキングマップづくりの会」と市が協働で、市内の見所や健康情報を掲載した全9コースからなる健康ウォーキングマップを作成。このマップを活用し、市民の方々にウォーキングを楽しんでもらう。	健康増進課	【実績】 市内16の公共施設にウォーキングマップを設置。配布数9,210枚。ひとつのコースを歩いてみるウォーキングイベントを秋に実施。マップの会5人、公募市民16人参加。 【振り返り】 マップは安定して好評を得ている。例年1万枚前後のマップが配布されている。他市から訪れる人にも利用されている様子がある。	B:平成30年度並みの成果であった	・平成29年のカラー版の配布以降、毎年1万枚近い配布数が続いており好評が伺える。作成に関与した市民の、マップへの自負や愛着もある。
(2)-34	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	住宅地等安全緑化推進事業(ガーデン講習会)	緑の基本計画に基づく、市街地の緑化推進事業の一環として、緑化や園芸について学ぶ場を提供するとともに、防災や交通安全の視点も含んだ安全緑地の考え方を広く市民に浸透させ、民有地緑化を推進することを目的とする。	環境政策課	【実績】 ・市民向けに、庭木を手入するポイント等について、谷保第三公園内の樹木を実際に剪定する講座を実施。29名が参加。 ・谷保第五公園を対象に、防災や交通安全の視点を含んだ安全緑化見本園を設置した。	B:平成30年度並みの成果であった	・緑化等に対する関心が高まった等の声があった。
(2)-35	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	廃棄物処理施設見学会	市民から出される廃棄物処理の流れを理解してもらい、ごみの減量・資源化を推進するため、廃棄物処理施設の見学を行う。	ごみ減量課	【実績】 施設見学会を17回行い、延べ1,266名が参加した。	B:平成30年度並みの成果であった	・ごみに対する意識が変わった、との声があった。
(2)-36	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	家庭用生ごみ処理容器「ミニ・キエーロ」モニター講習会	家庭から出る生ごみを減量するため、「ミニ・キエーロ」の使い方等を説明するためのモニター講習会を行う。	ごみ減量課	【実績】 モニター講習会を9回行い、75名が参加した。	B:平成30年度並みの成果であった	・ごみが減った、今後も続けたい、との声があった。
(2)-37	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	種まきから収穫までの農業体験事業	農業のノウハウを学びながら、種まき、草取、収穫を通して体験する。	南部地域まちづくり課	【振り返り】 講師からの熱心な指導と参加者の習得意識の高さがうまかみ合うことができた。	B:平成30年度並みの成果であった	・講師からの直接指導を受けることができるメリットと、自らが栽培することの喜びのお声あり。

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	令和元年度の実績と振り返り	令和元年度の担当課評価	市民・利用者からの声
(2)-38	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	収穫と調理体験事業	講師を招き、市内農園で自ら収穫した野菜と一緒に調理する。	南部地域まちづくり課	【振り返り】 自らが収穫したものを調理するまでの本企画は人気が高く、参加者から事業終了後のアンケートでも好評であった。	B:平成30年度並みの成果であった	・講師からの直接指導を受けることができるメリットと、自らが栽培することの喜びのお声あり。
(2)-39	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	お米農家の見学と田園散策	案内人の解説を受けながら、お米農家や用水など、南部地域の田園地帯を散策する。	南部地域まちづくり課	【振り返り】 募集に対する応募があまり奮わなかったため、実施方法を再検討しながら継続実施していく。	C:平成30年度より低い成果であった	・地元産のお米や地域への関心が高まった、水路に沿ってそこに生息する生物の見識が深まったなどの感想があった。
(2)-40	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	地域に開かれた学校教育	現在の学校を知り、学んでもらうため、学校公開、道徳授業地区公開講座、セーフティ教室を実施する。	教育指導支援課	【実績】 全市立小・中学校において、セーフティ教室及び道徳授業地区公開講座を開催した。 【振り返り】 道徳地区公開講座における意見交換会の保護者及び地域の方の参加数を増やし、より充実させる。	B:平成30年度並みの成果であった	・特段の意見はないが、参加者が期待より少ない
(2)-41	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	人権、平和、憲法、環境、多文化共生などの事業	現代社会の課題を考えることを目的に、普遍的な課題や時事的な社会問題などの様々な学習機会を提供する。	公民館	【実績】 人権(2回)、環境(2回)、多文化共生(4回)等現代社会の課題を考える講座を実施。令和元年度は、平和講座を柱として年間7回実施した。	B:平成30年度並みの成果であった	・平和講座では、南スーダンやシリアの情勢、第二次世界大戦中の出来事、報道や音楽等様々なテーマで実施することで、色んな側面から平和について考えることができた、との声があった。
(2)-42	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	地域課題・教育機関連携事業	まちを知る、地域から学ぶこと、地域の高等教育機関との連携などを目的に事業を展開する。今後も社会教育施設として、目的に沿った多様な学習機会を提供する。	公民館	【実績】 一橋大学院生講座(1回)・連携講座(2回)、地域史講座(6回)、地域防災講座(1回)等、地域のサークルや大学等と連携して講座を開催した。令和元年度は、中央図書館、郷土文化館と連携して、国立を古代から近代まで、大学町の成り立ちと駅舎を中心とした講座を実施した。	B:平成30年度並みの成果であった	・地域史講座では、多摩地区の歴史から、鉄道や大学町の計画までを学習することができて国立市に関する興味や愛着がますます深まった、との声があった。
(2)-43	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	社会・人文学習事業	社会を見つめ、文化をつくることを目的に事業を展開する。今後も社会教育施設として、目的に沿った多様な学習機会を提供する。	公民館	【実績】 図書室のつどい(10回)、ブッククラブ(8回)、映画会(9回)、古典講座(5回)、哲学講座(5回)等を実施。	B:平成30年度並みの成果であった	・話題の図書や映画作品を毎月取り上げることで、幅広い年齢層が来館され、学習や読書活動へとつながった、との声があった。
(2)-44	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	表現学習事業	表現と創作を楽しむことを目的に事業を展開する。今後も社会教育施設として、目的に沿った多様な学習機会を提供する。	公民館	【実績】 身体表現ワークショップ(7回)、介護短歌(2回)、銅版画(3回)等を実施。	B:平成30年度並みの成果であった	・日常生活の中ではなかなかできない自己表現をすることができた、などの声があった。

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	令和元年度の実績と振り返り	令和元年度の担当課評価	市民・利用者からの声
(2)-45	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	公民館図書室・地域資料収集事業	読書活動振興および講座関連図書を知りやすくなるため開室している。今後も図書業務の機能充実および推進を図る。	公民館	【実績】 公民館主催講座に関連する書籍の受入、地域資料の継続的な収集・整理・保管を実施。	B:平成30年度並みの成果であった	・講座に関する知識をより深めることができる、地域の活動の一端を知ることができる、などの声があった。
(2)-46	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	図書館企画事業	講演会や講座、行事等を企画し、市民、利用者が自ら学び、活動できる機会を提供する。	図書館	【実績】 講演会・講座・勉強会を131回開催した。 【振り返り】 さまざまな世代に即した、事業を意識し、図書館の利用を促進する必要がある。	A:平成30年度より高い成果があった	・概ね良い評価を得ている。
(2)-47	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	わくわく塾くにたち	市の職員が市政の現状や課題、政策内容などの情報や職務で得たノウハウ等を地域グループ、サークル等主催の学習会に出向き、講座を行う。	生涯学習課	【実績】 実施件数12件、延べ参加者数148人 【振り返り】 平成30年度に比べると件数、参加者数ともに減少した。市民を引き付けられるような講座メニューの新設や、講座の質の向上が求められる。	C:平成30年度より低い成果であった	特になし。
(2)-48	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	文化芸術推進事業	現在策定中の(仮称)文化芸術推進基本計画に沿って文化芸術施策を展開する。	生涯学習課	【実績】 令和元年5月に国立市文化芸術推進基本計画を決定し、また、計画書の印刷製本にあたっては、多摩美術大学の学生に表紙デザイン等の装丁を依頼した。なお、令和元年度中に職員向けアートマネジメントセミナーの開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で延期となった。	B:平成30年度並みの成果であった	特になし。
(2)-49	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	くにたち原爆・戦争体験伝承者による講話活動	被爆体験や戦争体験を次世代へ伝えるため、市内の被爆者・戦争体験者の体験と平和への願いを語り継ぐ「くにたち原爆・戦争体験伝承者」による講話を市内公共施設や小中学校等で開催する。	市長室	【実績】 くにたち原爆・戦争体験伝承者(第1期生・第2期生)による講話を、市内公共施設で計12回、市内外の団体・学校・市民グループなどによる派遣依頼を受けて計24回、および市内の小中学校8校で実施した。 【振り返り】 講話を通じて、特に若い世代に被爆者や東京大空襲体験者の体験や平和への願い、伝承者の想いを広く伝えることができた。	B:平成30年度並みの成果であった	・定期講話の参加者から、「口頭伝承の大切さを感じた」「二度とこのような思いをさせてはいけないと感じた」「小中学校での講話を広げてほしい」「講話についてより多くの方々を知るための工夫が必要」といった声があった。
(2)-50	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	「エコール辻東京」料理講習会	地産地消を目的とし、また、消費者啓発を図るため、身近な食材を用いた新しいレパートリーを学ぶ講習会を行う。	まちの振興課	【実績】 令和元年9月に日本料理講習会を実施した。132名の方より応募があり、抽選で選出した70名の方に参加いただいた。	B:平成30年度並みの成果であった	・為になる、良い講習であった、との声が多かった。これを機に国立野菜を使った料理に挑戦したい、との声もあった。

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	令和元年度の実績と振り返り	令和元年度の担当課評価	市民・利用者からの声
(2)-51	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	文化芸術講演会	市民の方々が文化芸術に対する関心を高めてもらうことを目的に、NHK事業部との共催で、美術館・博物館等で行われる企画展と関連する内容の講演会を行う。	生涯学習課	【実績】 文化芸術講演会を2回開催し、延べ参加者数は302名だった。 【振り返り】 講演後に実施した質問コーナーでは、参加者からの質問が途切れないなど、関心の高さがうかがえた。	B:平成30年度並みの成果であった	特になし。
(2)-52	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	消費者講演会	消費者団体と共催で、消費者啓発を行うための講演会を実施する。毎年トレンドに合わせてテーマを変えながら、消費者の啓発および自立を図るべく継続実施していく。	まちの振興課	【実績】 令和2年3月に講演会実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止。	D:令和元年度未実施であった	
(2)-53	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	大使館訪問スタディツアー	国際理解を深めるため、市内小・中・高校生を対象に、地域国際交流団体の支援を受け、大使館等の国際機関への訪問を実施する。	まちの振興課	【実績】 令和2年3月に講演会実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止。	D:令和元年度未実施であった	
(2)-54	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	LINKくになち	スポーツに対して親しみを持ってもらい、また、連帯感や達成感を共有し、市民同士の繋がりを強めることを趣旨として、大学通りでリレーマラソン等を実施する。	まちの振興課	【実績】 来場者数:約10千人(前年度より約3千人増)、リレーマラソン参加者数:1,188人	A:平成30年度より高い成果があった	・年々、リレーマラソンの募集定員に達する期間も短くなっており、毎年、参加を楽しみにしているランナーも増えているとのこと。
(2)-55	○各種団体との連携・協働	花と緑のまちづくり事業	総体となる「花と緑のまちづくり協議会」及び主要テーマ毎の検討部会/プロジェクトを立ち上げ、市民委員が主体となり、各々が定期的なMTGや実活動(美化活動やイベント)を実施する。多様なメンバーが結びつきながら、花と緑を切り口に地域内で活躍する機会を提供することができる。	環境政策課	【実績】 くになち花と緑のまちづくり協議会を年9回実施した。また、大学通りの花植えの検討、実施や、桜の接ぎ木体験、どんぐりの試食体験等、季節ごとの環境イベントを実施した。	B:平成30年度並みの成果であった	・季節に合わせたイベントは市民から大変好評であった。
(2)-56	○各種団体との連携・協働	くになち緑のサポーター養成塾	一般公募による市民と市職員を対象に、緑を適切に保護・育成するための必要知識を学び共有する機会を提供する。講座は全6回で、テーマ毎に大学教授、研究職員、造園家、樹木医、庭園家、市職員が講演を実施。修了試験に合格した市民は「緑サポーター」として登録し、市内の緑の見守り隊や、花と緑のまちづくり事業等で活躍できるよう、フォローをする。	環境政策課	【実績】 令和元年度は、全6回の講座を受講した17名が新たに緑のサポーターとして登録された。また、過年度に緑のサポーターとして登録されていた方を対象に、樹木診断等についての追加講座を実施したところ、3名の受講者があった。	B:平成30年度並みの成果であった	・追加の講座では、剪定に関する知識だけでなく、樹勢等について学ぶ内容としたところ、受講者から大変好評であった。
(2)-57	○各種団体との連携・協働	他団体と図書館の連携事業	NHK学園の協力のもと、月2回程度、国立市民向けにNHK学園の図書館が開放され、図書や、雑誌、新聞、インターネットの閲覧等ができる。一橋大学サークルの協力により、中高生向け図書の展示や図書リサイクルを実施する。国立本店との協働により、推薦図書の展示や講座・講演会等を開催する。	図書館	【実績】 展示会等を開催した。 【振り返り】 学習機会を提供できていると捉える。	B:平成30年度並みの成果であった	特になし。

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	令和元年度の実績と振り返り	令和元年度の担当課評価	市民・利用者からの声
基本目標(3)学習の成果を活かせるサポートの充実					【実績】参加人数等の実績 【振り返り】担当課としての振り返り評価	A～Dの4段階で評価	参加した市民や利用者からの声
(3)-1	○発表の場の充実	くにたち市民文化祭	市民の自主的な文化・芸術活動を支援するため、毎年1回文化祭を実施する。今後も文化・芸術活動の場の促進を図る。	公民館	【実績】参加団体25団体(新規1団体)、参加者や来場者合わせて約3,000名程度。	B:平成30年度並みの成果であった	・毎年の文化祭を活動発表の場として日々の活動を頑張っている、発表の場があって嬉しい、文化祭での公演をきっかけに新しいメンバーが増えた、などの声があった。
(3)-2	○発表の場の充実	市民まつり・さくらフェスティバル・LINKくにたち	大学通りや谷保第三公園で行われるまつり・イベント。会場内では、様々な催し物が開催され、来場者が楽しむことができる。舞台等では踊り・歌等が披露されており、各団体にとって日頃の成果の発表の場となっている。	まちの振興課	【実績】 ・さくらフェスティバル:延べ約10千人 ・LINKくにたち:約10千人 ・市民まつり:約99千人(新規事業:50周年記念で特設ステージを2カ所で展開した)	A:平成30年度より高い成果があった	・市民まつりでは、50周年記念で旭通りと富士見通り側の2カ所で特設ステージを設け、市民の発表の場が増えたことにより喜びの声が多かった。
(3)-3	○学習の成果を活かせる場の形成	くにたち原爆・戦争体験伝承者による講話活動	被爆体験や戦争体験を次世代へ伝えるため、市内の被爆者・戦争体験者の体験と平和への願いを語り継ぐ「くにたち原爆・戦争体験伝承者」による講話を市内公共施設や小中学校等で開催する。	市長室	再掲(2)-49	再掲(2)-49	再掲(2)-49
(3)-4	○学習の成果を活かせる場の形成	いきいき百歳体操の普及推進	高齢者の介護予防として筋力向上とコミュニティづくりを推進するため、おもりを使った筋力運動である「いきいき百歳体操」の普及と効果測定を庁内保健師連携により図るとともに、自主的に行うグループを増やしていく。	健康増進課	再掲(2)-1	再掲(2)-1	再掲(2)-1
(3)-5	○学習の成果を活かせる場の形成	健康づくり推進員活動支援事業	意欲ある市民を健康づくり推進員として登録し、保健師等とともに市民の健康づくりを推進する。推進員には必要な病態、運動、栄養等の知識の習得と健康づくりの実践に努めていただき、地域住民等の自発的な健康づくり活動の展開につなげていく。また、オリジナル体操の普及を推進するため、健康づくり推進員が毎週定期的に公園で開催するほか、地域の団体への出張講習や高齢者事業等で普及を図る。	健康増進課	再掲(2)-19	再掲(2)-19	再掲(2)-19

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	令和元年度の実績と振り返り	令和元年度の担当課評価	市民・利用者からの声
(3)-6	○学習の成果を活かせる場の形成	シニアカレッジ研修	高齢化が進む社会の中で、地域で高齢者サロンの開催や生活支援活動を担ってもらえる方、市内の訪問介護・通所介護事業所に従事していただける方を養成する講座を開催する。	高齢者支援課	【実績】 10月中旬から1月末までの間に25回実施。 【振り返り】 受講生の満足度も概ね高いものとなっている。	B:平成30年度並みの成果であった	・いろいろな研修があって楽しかった、元気な間はできるだけ可能な活動を行っていきいたい、との声があった。
(3)-7	○学習の成果を活かせる場の形成	花と緑のまちづくり事業	総体となる「花と緑のまちづくり協議会」及び主要テーマ毎の検討部会/プロジェクトを立ち上げ、市民委員が主体となり、各々が定期的なMTGや実活動(美化活動やイベント)を実施する。多様なメンバーが結びつきながら、花と緑を切り口に地域内で活躍する機会を提供することができる。	環境政策課	再掲 (2)-55	再掲 (2)-55	再掲 (2)-55
(3)-8	○学習の成果を活かせる場の形成	くにたち緑のサポーター養成塾	一般公募による市民と市職員を対象に、緑を適切に保護・育成するための必要知識を学び共有する機会を提供する。講座は全6回で、テーマ毎に大学教授、研究職員、造園家、樹木医、庭園家、市職員が講演を実施。修了試験に合格した市民は「緑サポーター」として登録し、市内の緑の見守り隊や、花と緑のまちづくり事業等で活躍できるよう、フォローをする。	環境政策課	再掲 (2)-56	再掲 (2)-56	再掲 (2)-56
(3)-9	○学習の成果を活かせる場の形成	多世代交流・市民サークル交流事業	子どもと大人の世代間交流、異種サークル交流、地域人材活用のため事業を実施する。今後も多様な交流や地域人材の活用を図る。	公民館	【実績】 令和元年度は、世代間交流として、市内の小学生を対象に、地域のサークルに協力してもらい、紙版画でのカード作りや”にーだんご”作りなどを行った。	B:平成30年度並みの成果であった	・小学生にとっては、地域の料理やおはやしなどを体験できる機会に、地域のサークルには小学生やその保護者に日ごろの活動の成果を発表し交流を図る機会となった、との声があった。
(3)-10	○学習の成果を活かせる場の形成	図書館ボランティア育成事業	図書館サービスを向上させ、市民参画を促すために、研修等によりボランティア(音訳・点訳ボランティア、くにたちお話の会、えほん読み聞かせボランティア等)の育成を図る。	図書館	【実績】 ボランティア活動が320回だった。 【振り返り】 図書館サービスを向上させ、市民参画も促している。	A:平成30年度より高い成果があった	特になし。



番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	令和元年度の実績と振り返り	令和元年度の担当課評価	市民・利用者からの声
基本目標(4)施設や場の拡充、職員の専門性の確保					【実績】参加人数等の実績 【振り返り】担当課としての振り返り評価	A～Dの4段階で評価	参加した市民や利用者からの声
(4)-1	○施設や場の拡充・市民ニーズに合った施設運営	公民館会場・備品等の貸出事業	市民の自主的な社会教育活動を支援するため実施する。今後も社会教育施設として市民の自主的な学習活動の支援を図る。	公民館	【実績】サークル利用が年間4,994回。備品は、印刷機673回、液晶モニター153回、プロジェクター162回、マイクセット137回等貸出しを行った。	B:平成30年度並みの成果であった	・ホールの利用率は平均90.4%、音楽室が平均80.6%など各部屋の利用率も高く、市内のサークルが活動するうえで大切な活動の場所となっている、との声があった。
(4)-2	○職員の専門性の確保	職員研修の実施	地域住民の主体的学習の促進、計画・事業等の企画立案、地域の様々な情報の収集・分析・提供、組織化援助、関係者(機関)との連絡調整、地域における指導者等の人材育成の能力を育成するような研修を実施する。	職員課	【実績】東京都市町村職員研修所の実務研修に図書館科があり、平成30年度に1名派遣した。この研修は、偶数年の実施となっており、令和元年度は実施がなかったが、令和2年度は実施予定のため、派遣を予定している。	D:令和元年度未実施であった	
(4)-2	○職員の専門性の確保	職員研修の実施	地域住民の主体的学習の促進、計画・事業等の企画立案、地域の様々な情報の収集・分析・提供、組織化援助、関係者(機関)との連絡調整、地域における指導者等の人材育成の能力を育成するような研修を実施する。	生涯学習課	【実績】具体的な研修は未実施である。なお、現在、社会教育委員の会において、「職員の専門性の確保に関する事業」について意見を取りまとめているところである。	D:令和元年度未実施であった	
(4)-2	○職員の専門性の確保	職員研修の実施	地域住民の主体的学習の促進、計画・事業等の企画立案、地域の様々な情報の収集・分析・提供、組織化援助、関係者(機関)との連絡調整、地域における指導者等の人材育成の能力を育成するような研修を実施する。	公民館	【実績】前年度に引き続き東京都公民館連絡協議会に加盟し、年30回程度の部会へ参加した。その中で一般市民も参加ができる2月の東京都公民館研究大会の企画・運営を行い、国立市からは公民館運営審議会委員・職員計13名が参加した。	B:平成30年度並みの成果であった	・他自治体の職員や委員、市民と交流し、現代の社会教育が抱える課題を研究することで、地域住民の学習活動を支援する上で必要な知識や技能が身についた、との声があった。
(4)-2	○職員の専門性の確保	職員研修の実施	地域住民の主体的学習の促進、計画・事業等の企画立案、地域の様々な情報の収集・分析・提供、組織化援助、関係者(機関)との連絡調整、地域における指導者等の人材育成の能力を育成するような研修を実施する。	図書館	【実績】能力育成、情報交換等の研修に累計23人が参加した。 【振り返り】職員的能力等の向上に資することができた。	B:平成30年度並みの成果であった	特になし。

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	令和元年度の実績と振り返り	令和元年度の担当課評価	市民・利用者からの声
基本目標(5)適切な事業評価方法の検討					【実績】参加人数等の実績 【振り返り】担当課としての振り返り評価	A～Dの4段階で評価	参加した市民や利用者からの声
(5)-1	○生涯学習や社会教育の役割や効果を表すことのできる評価方法の検討	事業評価方法の検討	生涯学習振興・推進計画の中間評価、終了時の評価をするにあたり、定量評価と定性評価の両面からの評価をするため、評価方法の開発について検討します。	生涯学習課	【実績】未実施 【振り返り】中間評価に向け、次年度以降、定量評価、定性評価の両面から評価方法を検討していく。	D:令和元年度未実施であった	